

## 第4B(中)分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 学校経営の重点目標達成に向けて組織的に取り組むための教頭の役割  
サブテーマ ～学校が「チーム鶴崎」として機能するために～  
協議の柱 職場の協働的職場風土を深めるための教頭としての役割は何か

提言者 大分市立鶴崎中学校 姫野 宏 明

### 1 質 疑

- (1) Q 企画委員会とは運営委員会のことでしょうか。  
A はい、そうです。
- (2) Q 不登校が減ってきた理由は何でしょうか。  
A 取り組みとしては楽しい学校を作ろうと「分かる、できる」授業をやってきた。そして生徒の悩みを聞こうと二者面談をおこないました。教室には行けないけど学校には来れる生徒の居場所づくりを3年間やってきた成果ではないか。先生がた全員で一人の生徒に関わっていく姿勢が本校にあったからではないか。

### 2 協 議

- (1) 教頭としては、いろいろなノウハウを率先して教えることも大事だが全部を教えるのではなく、ある程度経験させるようしておく。コミュニケーションをとりながら職員との関係性を築いていくことが大事。苦勞をさせながらアドバイスをしていくことが大事。外部機関とか指導法も含め、ある程度道筋を最初は作ってもいいが、自分がいなくなっても機能していけるようにすることが教頭の役割。
- (2) 4月がポイントで、先生がたの情報を掴んでおいて校長に進言する。教頭は、先生方に仕事を任せられるようにシステム化していき、助言などしていきながらできなかったことは次につながらせていく。また、ミドルリーダー、若手の育成において、50代の先生方へどのように支援していくかが課題。若い先生方の指導をしていただき、学校経営に参加してもらうようにしていく。そして、状況をみていろんな先生方へ声掛けしていくことが大切。
- (3) チーム学校として何事にも職員全員が共通理解しながら学校運営していくことで学校が落ち着いていく。管理職から分掌へ、そして全体へという流れを繰り返していくことで学校は1つになっていく。仕事を忘れる先生には、声掛け、週案を利用しながら遅れないようにしている。教頭が助かるのは教務や主幹教諭が機能してくれること。そのために声掛けしながら雰囲気づくりをしている。

### 3 指導助言

- (1) 協働的職場風土はなぜ必要か。1つ目に多様な問題に対応するため多様な職種が配置され、教員がより授業に専念できる。そのためにSC、SWなどに教員の仕事を理解してもらい相互関係を築くために支援部会に参加させる。2つ目に組織をマネジメント化しないといけない。なかでも、子供に近いところの分掌に若手を入れてミドルリーダーとして育てていく。3つ目は多忙感の解消。職員の自尊感情を大事にしていくために職員の話を最後まで体と顔を向けてよく聞くこと。最後に、「難しい仕事、きつい仕事」ほど笑顔で。これが気持ちよく先生方に仕事をしてもらい子供の笑顔につながる。